

油絵の保護ワニス

保護用ワニスの種類と特色

油彩の作品をそのままにしていると、空気中の有毒ガスやほこり、たばこの煙などによって作品が汚染されます。そのため、画面の上に通気を遮断する無色透明の被膜をつくって作品を守るのが保護用ワニスの役目です。古くなった保護用ワニスの被膜はペトロールなどで拭き取れ、新たに塗り替えられるので、いつまでも作品を美しいままで保管できます。

保護用ワニスには「つや出し」と「つや消し」タイプの2種類があります。いずれも、塗布するときは作品が完全に乾燥（目安は6から12カ月後）してからにします。被膜が通気を遮断するため、絵具が半乾きの状態で塗ると亀裂や剥落の原因になるからです。以下に代表的な製品とその特長、使用上の注意、テクニックなどを簡単に説明します。

■つや出し：「タブロー」、スプレー「タブロー」

被膜が強く、塗り替え時の再溶解性に優れた理想的なワニスです。湿度の高い日に塗ると、塗布膜が白く曇ることがあるので、天気の良い日に塗るようにします。液状とスプレータイプがあります。

■つや消し：「プランマットリキード」、スプレー「マットタブロー」

単独で使用できますが、「プランマットリキード」は「タブロー」と適宜混合することで、半光沢の画面がつくれます。「スプレー「マットタブロー」はわずかに通気性があるので、「タブロー」の上から塗布するとより完全な保護膜になり、塗り重ねによって半光沢の効果が出せます。

完全乾燥を待たずに使えるワニス

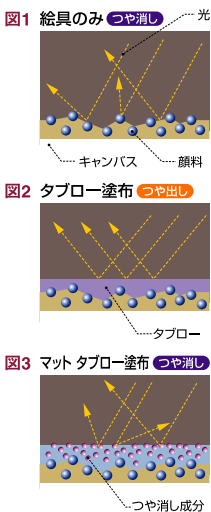
しかし、画面が完全に乾燥するのを待たずに展覧会に間に合わない。絵を描いていると、そういったケースが多いのではないのでしょうか。そんなときに使える便利な保護用ワニスに、「ラビッド

タブロー」(つや出しタイプ)です。通気性があるので、絵具の表面が乾燥(指触乾燥)した頃から使えます。ただ、画面の状況上、仮引き保護ワニスのような性格が強いため、後日、作品内部まで絵具が乾燥したときには、「タブロー」「スプレー「タブロー」への塗り替えをおすすめします。

「つや」の原理

ところで、どうして「つや」が出たり、「つや」のないマットな画面になるかご存知でしょうか。

図1は油絵具のみで描いた画面の状態です。塗ったばかりの油絵具は全体を滑らかな油が包んでいて「つや」がありますが、乾燥してくると絵具に含まれる揮発成分が減り、顔料成分が表面に現れて凹凸ができます。この凹凸が光を乱反射させるため、「つや」がなくなるわけです。図2はつや出し用のワニスをかけたものです。ワニスが画面の凹凸をならした状態で固まるので、表面は平らになります。この面が光を反射して光るため、「つや」が出てきます。図3はつや消し用のワニスをかけたものです。ワニスの中に透明な粒子が配合されて、表面がザラザラになります。これが光を乱反射して、マットな画面をつくり出します。「つや」のあるなしの関係は、ガラスとすりガラスをイメージするとわかりやすいでしょう。簡単な科学の原理ですが、知っておくと画面の光沢を調整するワニスの働きが理解しやすいと思います。



ラビッド タブロー

※参考文献:「絵具の科学」ホルベイン工業技術部編(中央公論美術出版)など

ホルベイン絵具に関する
ご質問・ご相談は…

ホルベイン絵具 技術サービスセンター TEL.0729 (85) 1223
〒579-8063 東大阪市横小路町4-10-52
電話受付時間/9:00~16:00 月~金曜日(祝日を除く)



ホルベイン絵具